

# Soccer News SHIGA

〒524-0212 滋賀県守山市服部町2439番地 TEL:077-585-0982 FAX:077-585-0983

2021.3 No.62

発行 公益社団法人  
滋賀県サッカー協会  
責任者 専務理事 前田 康一  
shigafa@oregano.ocn.ne.jp  
<http://www.shigafa.com/>

## JFA第25回全日本U-15女子サッカー選手権大会を開催して

専務理事 前田 康一

JFA第25回全日本U-15女子サッカー選手権大会の1回戦・2回戦を、2020年12月12日（土）・13日（日）に大津市皇子山総合運動公園陸上競技場および野洲川歴史公園サッカー場（ビッグレイク）において、本協会が主管として運営し、コロナ禍の中無事終了することができました。

この大会は、JFAが日本国内における女子サッカーの技術向上と健全な心身の育成を図り、広く女子サッカーの普及振興に寄与することを目的として、中学生年代の登録選手を対象とした単独チームの大会です。2019年度までは、7月下旬に大阪府堺市の「J-Green堺」において集中開催されていましたが、昨今の夏季大会の暑熱対策の観点から、2020年度より冬季の大会に移行されることとなり、2018年3月にJFAは、この大会の移行に伴う新たな主管協会の公募を行いました。そこで本協会は、二巡目国体に向け、少年女子（U-16）種別の選手強化や運営役員の育成強化を図るため、この大会の1・2回戦の主管に応募しました。6月にJFAによる現地調査を受け、10月にJFAより主管協会の承認を頂き、2020年度から3年間本県で開催することが決定しました。

2020年に入り、全世界規模の新型コロナ感染症のために、春季や夏季の全国大会がほとんど中止・延期され、この大会が開催されるか不安な状況でしたが、9月からJFAとのWeb会議が始まり、徐々に準備を進めていきました。しかし、選手・スタッフ・観客のコロナ対策が準備協議の中心となり、本来の大会運営の準備協議が十分にできない感があり、初めての全国大会開催に不安な部分がありました。その中、女子委員会を中心、他種別からの援助を受けながら、県協会のスタッフ配置を決めていきました。

11月中旬に組合せが決定し、滋賀県へは北海道・宮城県・東京都（3）・大阪府（2）・鹿児島県の8チームが来県することが決まりました。各チームと連絡を取り合い、情報交換を進めながら大会を迎えるました。12月11日（金）、2会場の準備を進める中、遠方からこ

られたチームの前日練習がビッグレイクで始まり、大会開催の機運が盛り上がりつきました。

12月12日（土）は温暖な好天、13日（日）はにわか雨が降り少し肌寒い天気でしたが、試合には支障がなく、2日間6試合の熱戦を無事運営することができました。全国予選を勝ち上がったチームの選手の戦いはレベルが高く、PK戦までもつれる接戦もあり、滋賀県内では見られないスキルの高さや試合の激しさは全国大会を実感できるものでした。また、コロナ禍にも関わらず、全国から応援に来られた観客の皆様にも満足していただけた大会開催となつたと思います。でもやはり、選手・役員や観客との動線、入場口を分離すること、入場口での検温等の健康チェックの確認、役員・選手席、観客席のソーシャルディスタンスの確保など、コロナ対策のために費やされた労力は今までの大会運営では経験したことのないものがありました。また、公式記録作成や審判員・選手の対応など今後の大会運営に活かしていく事柄も見出すことができ、大変有意義な大会となりました。ただ、滋賀県のチームが出場していないことにはやはり一抹の寂しさがありました。来年は滋賀県代表チームが関西予選を突破して、是非出場してくれることを期待します。

最後になりましたが、本大会の運営に携わっていただいた多くの役員・補助員の方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



## 天皇杯の感想

MIOびわこ滋賀

今年も引き続き監督をやらせてもらうMIOびわこ滋賀の大槻紘士です。

昨年の天皇杯は新型コロナウイルスの影響もあり、非常に変則的な天皇杯となりました。その中で、Jクラブが準々決勝より出てくるという事もあり準々決勝進出、Jクラブを倒すという目標を掲げて挑みましたが、達成する事はできませんでした。せめて対戦までは行かなければならぬという気持ちで戦いましたが2回戦にて敗退という残念な結果に終わってしまいました。

新型コロナウイルスの影響によりリーグ戦、天皇杯と非常にタイトなスケジュールで総力戦になる中、まずは1回戦の関西リーグ1部所属のCento Cuore HARIMA戦。90分で決着がつかず、延長戦へ、延長前半に左サイドの攻防から上げられたクロスをヘディングで合わせられ失点。その後試合は動



かず、0-1で延長後半へ、延長後半も両者引かず攻防を続ける中、延長後半口スタイルに得点し、1-1の同点に。その後PK戦に入りPK戦にて勝利。苦しい戦いでしたがなんとか勝つ事ができ2回戦へ。

2回戦も1回戦同様関西リーグ所属のアルテリーヴォ和歌山。中2日で3試合をこなし、中3日で迎えた2回戦という事もあり、疲労困憊のゲームでした。結果的には0-1で敗退してしまいました。

2週間で5試合、選手達は仕事もしながら毎日トレーニングを行い、その中で、非常にタフに、そして勝つ為に戦ってくれました。

そんな中で最大限の力を発揮させてあげることが出来なかつたは僕の責任です。ファン、サポーターにも申し訳ない気持ちです。

今年も、またコロナの影響がどのような形になるかわかりませんが、どんな状況でも開催できるのであれば目標はJクラブを倒す事。そこはぶれずに、リーグ戦と共に、天皇杯においてもより良い成績が残せるように、日々のトレーニングから努力し、一体感を持ってこの一年戦いたいと思います。



## 選手権に出場して

近江高校

コロナウイルスにより大会を実施できるか不安がありました。ですが、大会に関わる多くの方々の支援や配慮があり、無事に出場することができました。応援してくださった皆様に、心より御礼申し上げます。

近江高校サッカー部にとって選手権は初出場です。ここまででの道のりは本当に険しいものでした。メンバーに入れなかった3年生たちをはじめ、1期生・2期生の先輩らの想いも背負って挑み、コロナの影響でインターハイが中止になり選手権に賭けて挑んだ大会でもありました。

第99回全国高等学校サッカー選手権大会の結果としましては、1回戦、山形県代表 日大山形高校と対戦し、0-0 PK戦(5-3)で勝利しました。2回戦、鹿児島県代表 神村学園高校と対戦し、0-1で敗戦しました。

大会が終わって約1ヶ月がたち、振り返ってみると選手たちのコンディション調整や分析・会場視察など朝から夜中までサッカーに没頭した1週間でした。その期間は選手たちや私たちスタッフにとっても大変

有意義なものでした。インターハイや選手権での全国の舞台で、近江高校サッカー部は未勝利でした。3期生たちが初戦を突破し、歴史をつくってくれて、チームメイトや保護者の皆様、応援してくださった皆様と喜びを共有できたことが一番嬉しかったですし、努力が報われた思いでした。2回戦の神



## 第44回全日本U-12サッカー選手権大会を終えて

A.Z.R代表 東 崇史

第44回 JFA全日本U-12サッカー選手権全国大会に滋賀県代表として出場させていただきました。

初めての全日全国大会in鹿児島県『経験する全ての事を笑顔で楽しめる大会にしよう!』をテーマにスタートした全国大会。

自分達の力がどこまで通用するのか?不安や心配よりも楽しみの方が大きく、選手・スタッフ共に穏やかな気持ちで大会を迎えることが出来ました。

### ☆大会結果

#### ●予選Eグループ

vs 名古屋グランパス(静岡県代表) 1-1 △

vs FCアスルクラロ高知(高知県代表) 10-0 ○

vs バディーSC(神奈川県代表) 2-4 ×

☆1勝1敗1分 勝点4

グループ予選2位で勝ち点及ばず予選リーグ敗退

#### ●予選同順位チームによるトーナメント戦(マクドナルドカップ)

vs レノファ山口FC(山口県代表) 5-1 ○

vs フアナティコス(群馬県代表) 0-0 PK(7-6) ○

vs YF奈良テゾロ(奈良県代表) 2-1 ○

☆2位通過チームトーナメント優勝!

★全国8329チーム中17位

沢山の素晴らしいチームと試合をさせていただきました。どのチームも個人能力や技術力が高く、様々な特徴があり、全国大会のレベルの高さを感じる事ができました。

その中でも、対戦させていただいた昨年覇者のバディーSCには衝撃を受けました。個人、チームともにプレー強度が圧倒的で、ボールへの執着心、ワンプレーへの拘り、戦術理解、相手チームへの適応力と、全てに差を見せつけられる結果となり、足りない部分が明確化した価値のある試合でした。

ベスト8に残った5チームが関東勢。関東勢はグループ単位の人の関わりがチームとして徹底されていて、サッカー戦術の理解度が優れていると感じました。

個々が役割を理解し自分の役割だけではなく、仲間に関わっていく姿と最後まで諦めない姿勢はどのチームを見ても共通で、見習うべきところが沢山ありました。

全国大会を戦い選手達は、初めての舞台とは思えない程、果敢にチャレンジしてくれましたし、積み重ねて来たものをピッチで表現し躍動してくれました。

結果は目標としていたところまでは届きませんでしたが、滋賀県代表として胸をはれる試合をしてくれた選手達を誇りに思います。

素晴らしい環境のもと、有意義な時間を過ごさせていただき感謝しかありません。指導者として、この経験を必ず今後に繋げたいと思いますし、チームだけでなく、滋賀県、関西、日本サッカーのレベル向上に微力ながらも発信していかなければと思います。

2009年に小さな公園で数名とボールを蹴り始めたこのチーム。2014年にチーム登録させていただき、全国大会に出場できるまでのチームとなり素直に嬉しく思っています。多くの方に助け支えていただき今があります。感謝の気持ちを大切にして、今後も選手と共に成長し新たな歴史を作りたいと思います。

最後になりましたが、滋賀県サッカー協会をはじめ、サポート・応援していただいた全ての方に御礼申し上げます。

『ありがとうございました。』



## XF CUP2020第2回日本クラブユース女子サッカー大会(U-18)

FC BASARA甲賀レディース 監督 鳥飼 健一

今回コロナ禍の中、開催にあたり大変な状況にも関わらず大会運営や応援など多くの方々に感謝を申し上げます。ありがとうございました。今大会は例年でしたら夏場に開催予定でしたが、コロナの状況も踏まえ冬場に開催が移行致しました。例年でしたら予選リーグ上位2チームが決勝トーナメント進出のレギュレーションでしたが、規模を縮小し、各リーグ1位のみのベスト4からの決勝トーナメントに変更されました。

その中でも関西・滋賀代表としてグループリーグ突破を目指し大会に出場しました。私たちのチーム構成としてはU-15年代の選手も含めての出場でしたので、やはりU-18年代のフィジカルの差に非常に苦戦を強いられました。その部分を予測やポジショニングでお互いにカバーしあい、少しずつですが対応できたことが成果

として繋がりました。予選リーグ1試合目では高知ユナイテッドに7-1の勝利。2試合目では大和シルフィードにラストワンプレーのCKから失点してしまいましたが1-1の引き分け、大会3位の横須賀シーガルズの最終戦では0-3と敗戦してしまいましたが、最後まで選手達は戦い抜いてくれました。80分ゲームが3日間連続とハードな面もありましたが、U-15年代の選手も含めた中でU-18の選手中心によく最後まで諦めずにプレーし続けてくれたと思います。予選リーグ2位という結果でしたが、多くの成果を得ることのできた大会となりました。

また、今回の大会では新たな取り組みなども実施され、非常に今後に参考となることが多くありました。大会を通じてクラウドファンディングの実施を行い大会の充実化を図ることや、ネットでの無料配信など、女子サッカーを盛り上げる為に多くの取り組みが行われていました。大会にもスポンサー名を付け企業と一緒に女子サッカーを盛り上げる大会の形式が非常に参考となりました。今後の滋賀県の女子サッカー発展の為のヒントを得ることができました。

滋賀県の現状としては、まだまだU-18年代の環境が充実されておりません。他の地域ではクラブチームがU-18年代の受け皿となり女子サッカーの環境面促進に繋がっております。国体では、国体少年女子のカテゴリーが新たに行われます。女子サッカーのプロ化としてWEリーグが開催されるなど、よりよい環境作りがなされてきています。滋賀県でのU-18年代の充実化を目的とし、チームとしても今大会の経験を活かして活動していきたいと思います。

最後になりましたが、大会を通じて多くの方々に応援やサポートして頂き、このような経験を得ることができました。チームの代表として感謝申し上げます。ありがとうございました。



村学園戦では近江らしくパスワークとドリブルで何度も攻め続けることでチャンスをつくり、自分たちのペースで試合を進めることが出来たと思っています。ピッチに立った選手たちは、本当に一生懸命にプレーをして実力を発揮し、熱いものを感じさせてくれました。しかし、私たちは敗戦しました。自分たちの流れの時に得点できれば、つまり「決定力」が高ければ勝てたかもしれません。ですが、負けた敗因はそれだけではないと私は考えています。全国の常連である神村学園高校は、相手のペースになっても、どっしり構え、粘り強く我慢して無失点で耐えることができたり、悪い流れの中でも終盤に得点することができたりします。その力が勝つチームには備わっていることを知りました。もし、私たちが機能せず上手くいかない時、耐えることができただろうか。あの場面でゴールす

ることができただろうか。そのように考えると私たちは、まだまだだったと思います。選手権に出場したこと、私たちの通用したことや課題がはっきりとわかりました。次のステージに進むには、まだまだ個人の力としても、チーム力としても成長していくかなければならないと痛感した大会でした。

3期生には、初の選手権の舞台に連れて行ってくれたこと、また全国で初戦突破と近江の歴史を進めてくれたことに感謝しています。近江高校がさらに進化できるように頑張っていきます。近江高校サッカーチームがトーナメントで獲得できていないタイトルは、「全国制覇・日本一」です。ここを目指す以外に道はありません。『Be Pirates』をスローガンに目標に向かって突き進みます。

## 第29回 全日本大学女子サッカー選手権を終えて

聖泉大学 女子サッカーチーム 監督 後藤 剣

1回戦	四国第1代表	四国大学と対戦	3対2で勝利
2回戦	中国第1代表	徳山大学と対戦	0対0 PK戦 4対1で勝利
準々決勝	関東第7代表	大東文化大学と対戦	0対0 PK戦 2対3で敗退

第28回全日本大学女子サッカー選手権（インカレ）に続き、2年連続出場することができました。コロナ禍の状況で大学の対応としては、実習を伴う学問ということもあり、練習等でさまざまな規制や自粛の日々が続きました。そのような中でも学生たちは、自主トレを工夫するなどといった対応で基礎体力のキープを図ってくれました。

関西学生女子サッカー秋季リーグやインカレ（YouTube配信）も無観客での開催となり保護者の皆様や関係者の皆様等々も来場をお断りする大会となりました。大会は、例年同様全国24チームのトーナメント方式にて行われ、初のベスト8で大会を終えました。ベスト8を決める試合では、昨年と同会場となり更にPK戦にもつれ込むまで同じ状況。運命というべきか宿命的な感覚の中で、試合が行われました。不思議な感覚ではありましたが、敗退するイメージは全くありませんでした。続く、ベスト4をかけた試合でもPK戦までもつれ込みました。敗退したことは、選手・スタッフ共に、ただただ悔しかったことを覚えております。が、それ以上にチームとしての成長と選手が戦いの中で実感として獲得できたことが何より次のステップへ繋がると確信でき嬉しかったです。今、振り返っても、大会を通じ得たことがチームの財産になると実感しております。

「奪還、そして、挑戦」をスローガンのもと、今年度のテーマは、「QUALITY OF PRACTICE」と学生が掲げ、活動しておりました。大会を経ての課題や実感、更に確信して前進できること、進化できたことは、今年度のテーマのもと活動ができた結果かもしれません。また、選手たちは初のベスト8にも満足することなく、日本一を目指す眼差しを持ってくれたことはとても大きな収穫となりました。

今大会での実感や確信、悔しさを次年度の活動に

活かしていくことで、卒業する4回生や悔し涙をぬぐつてきた卒業生の思いに応えていくことも、一つの大切な伝統であり、思いたと感じております。

滋賀県の女子サッカーは、まだまだ途上にあります。学生と共に滋賀県女子サッカーチームへの貢献とは何か？私たちに何かできることはないのか、模索は継続し、皆様にお教示頂きながら、そして協力し、共感し高め合うことができたらと考えております。

3年連続インカレ出場へと繋げたい思いは、選手・スタッフ共に共感しております。初心を忘れず、更に進化することも忘れない飛躍を求めて頑張っていきたいと思います。

最後に、滋賀県サッカー協会をはじめ、多大なるご支援とご協力を頂きましたこと、誠に感謝いたします。今後も滋賀県サッカー協会の発展に貢献できるよう、精一杯努力しました共に皆様と一緒に歩んでいきたいと思います。ありがとうございました。

